



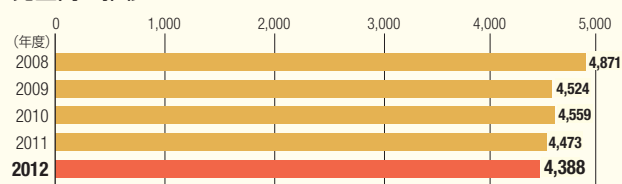
CSR 2013

会社概要 2013年3月現在

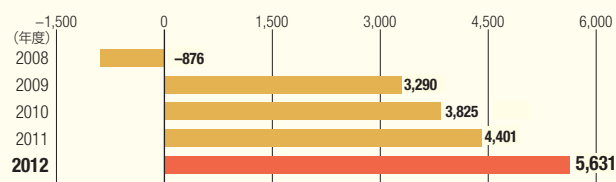
会 社 名	伊藤ハム株式会社
設 立	1948年(昭和23年)
創 業	1928年(昭和3年)
本 社 事 務 所	兵庫県西宮市高畑町4番27号
代 表 者	代表取締役社長 堀尾 守
資 本 金	284億2,700万円
売 上 高	4,388億2,700万円(連結)
連結対象会社	連結子会社 29社 持分法適用関連会社 11社
従 業 員 数	1,899人(連結:5,191人)
主 な 事 業	●食肉加工品の製造および販売 ●食肉の加工および販売 ●調理加工食品、惣菜類の製造 および販売など

業績(連結) 2013年3月現在

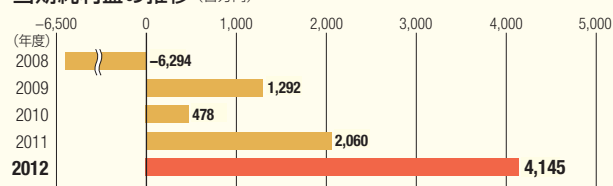
売上高の推移 (億円)



経常利益の推移 (百万円)



当期純利益の推移 (百万円)



編集方針

伊藤ハムでは2000年から「環境報告書」を発行し、今年で14回目の発行となります。2005年からは社会的側面の記述を充実させて「社会・環境報告書」として発行し、2008年から「企業の社会的責任」(Corporate Social Responsibility)に対する弊社の取り組みを皆様にご報告する内容に改めて、タイトルを「CSR報告書」としました。

本報告書は、ステークホルダーの皆様当社グループのCSR活動をわかりやすくお伝えすることを目的としており、2012年度のCSR活動の中でも特に重要性の高い事項を中心に編集しています。今回から取り組みに関わる社内外のステークホルダーの声を掲載し、よりいっそう、わかりやく、親しみやすい報告書となるよう心がけました。

また、本報告書に掲載できなかったサイトごとの詳細データなどについては、HTML版として公開しています。なお、本報告書はPDFのみで開示しており、冊子の発行はしていません。

■伊藤ハムホームページ:

<http://www.itoham.co.jp>

対象範囲など

◇報告対象組織

基本的には伊藤ハムグループの取り組みを報告していますが、一部の報告では伊藤ハム株式会社、もしくは弊社およびグループの生産工場に限定している場合もあります。

◇報告対象分野

伊藤ハムグループが取り組みを行う社会的活動および環境保全活動

◇対象期間

基本的には2012年度(2012年4月1日から2013年3月31日)の取り組みを報告していますが、一部では2012年度以前、以降についても報告しています。

◇参考にしたガイドライン

環境省「環境報告書ガイドライン(2012年度版)」
GRI「サステナビリティレポートガイドライン2006」

※「環境保全活動」の事業所写真は、原則として伊藤ハム(株)のものを掲載しています。関連会社の事業所を掲載した場合は、注釈に当該社名および事業所名を記載しました。



I N D E X

会社概要／編集方針／対象範囲など01
 トップコミットメント03
 グループ方針05



お客様とともに07

pickup お客様の声に耳を傾け、
 絆を深める場として
 「もっとおいしくコミュニティ」を運営

安全・安心への取り組み08
 お客様とのコミュニケーション09



株主・投資家様とともに10

企業情報開示・IR活動10
 開かれた株主総会を目指して10

pickup 株主優待制度



社会貢献活動11

1. 「食と健康」11

pickup 「食」に対する興味・関心を
 高めていただくために、
 「手作りウイナー教室」
 などを実施

2. 地域社会貢献活動12

3. ユニセフ支援活動12

4. 自然環境保護活動13

pickup 従業員とその家族が
 ボランティアとして参加する
 「こうべ森の学校」が
 発足10周年を迎えました



5. ボランティア支援活動13



従業員とともに14

pickup ワーク・ライフ・バランス

教育制度の充実15

労働安全衛生15

健康管理16

ダイバーシティの尊重16



ガバナンス17

企業倫理規範／組織体制17

コンプライアンス18

pickup コンプライアンス委員が
 職場での実践を支援

リスクマネジメント18

公正な取引18

情報セキュリティ18



環境保全活動19

環境宣言／基本理念／行動指針19

環境負荷の全体像20

第4次中期環境目標の
 取り組み結果と自己評価21

第5次中期環境目標22

環境マネジメント23

環境情報開示24

従業員教育・地域とのコミュニケーション24

生物多様性保全への取り組み24

環境負荷低減の取り組み
 (生産事業所／事務所・営業所・物流センター)25



アルトバイエルン



ラピッツァ アルトバイエルン



トップコミットメント

ごあいさつ

「食」を担う企業として 社会から信頼され続けるために

代表取締役社長

堀尾 守



はじめに

伊藤ハムグループは、1928年の創業以来「事業を通じて社会に奉仕する」の社是を掲げ、皆様の健康にとって大切な動物性タンパク質である食肉や食肉加工品をお届けし、食生活の向上に貢献してまいりました。また、「アジアの中で最も信頼される食肉加工メーカーになる」という経営ビジョンのもと、「食」を担う企業として社会から信頼され続けるために、中期経営方針においても「コンプライアンス体制のさらなる充実」を第一に掲げ、経営品質を高めるとともに、地球環境への配慮、社会貢献活動や食育活動などの分野においても、積極的に活動しております。

コンプライアンスを推進する体制

伊藤ハムグループはCSR本部が中核となってコンプライアンスを推進しております。2012年度も「CSR委員会」、「コンプライアンス責任者会議」、「コンプライアンス委員

制度」や「リーガルリスクマネジメントシステム」の運用など、さまざまな施策・取り組みを継続して行っております。

特に、明日を担う若手社員の中からコンプライアンス委員を任命し、担当職域を定め職場に根付いた活動を推進する「コンプライアンス委員制度」については、2012年度より、委員の数を大幅に増員し、体制を強化しております。委員は2年を任期として活動し、職場のコンプライアンスチェックはもとより、委員としての経験を活かした職場のコンプライアンス風土の醸成に取り組んでいます。現在、300名以上の委員が活動しております。

また、伊藤ハムグループ全体のコンプライアンスの浸透と徹底のため、全従業員を対象としたコンプライアンス教育プログラムを策定し、従業員教育を実施して、コンプライアンスマインドの定着を図っております。

食品会社として、最も重要なことは、安全な製品を安心してお召し上がりいただくことで、品質管理の徹底は言うまでもありません。各生産工場での品質管理、検査、点検はもちろんのこと、CSR本部による定期的、または臨時的な監査、点検を行っています。

社会と共生する「社会貢献活動」「食育活動」

伊藤ハムグループは地球環境への配慮と、社会との共生を大切にして、社会貢献活動を推進しています。全国の事業所周辺の清掃活動には、毎年のべ2,000人以上の従業員が参加するほか、「こうべ森の学校」や「高尾の森づくりの会」の活動に参加して間伐・植樹作業を実施するなど、自然環境保護活動も継続して実施しております。

伊藤ハムグループは、企業が地域社会に貢献するためには、従業員の地域社会への帰属意識と地域社会活動に対する積極的な参画意識を高めることが重要であると認識しております。そこで、従業員の社会貢献活動への積極的な参加を促すことを目的として、ボランティア体験学習を開催するとともに、ボランティア休暇制度や社会貢献表彰制度を充実させ、従業員のボランティア活動への参画意識の高揚を図っております。

一方、開発途上国の子どもたちの支援を行う趣旨に賛同し、2008年度よりユニセフとタイアップし、弊社製品の販売数量に応じユニセフを通じて寄付を行う「タンザニア栄養事業支援」を継続しております。

また、「食育活動」は食品企業だからこそできる社会貢献活動の一つであり、伊藤ハムグループのCSR活動の重要な一環であると考えております。2007年度より、その具現化のため「伝えていきたい食べるよろこび」をメインメッセージとしてさまざまな食育活動に取り組んでおります。2012年度は、主にお客様を対象に、手作りウインナー教室やピザ・シチューパイの手作り教室を工場見学とともに実施したほか、ウインナーの飾り切り教室を全国で開催し、お弁当をもっと楽しくするお手伝いをさせていただきました。今後も継続して活動を行ってまいります。

環境負荷を低減するために

継続的な環境保全と自然との調和・共生に配慮した事業活動を行うことは、伊藤ハムグループが企業の社会的責任を果たす基本姿勢と位置づけ、省エネルギー・省資源の推進、廃棄物の削減とリサイクルの推進、温室効果ガスの排出量削減など、さまざまな環境負荷低減活動に積極的に取り組むとともに、全生産施設を対象として、中期環境目標を定め、達成に向け日々努力を重ねております。

2012年度も高効率タイプのボイラーや冷凍機への更新など施設に関わる取り組み、およびLED照明への切り替え、空調機を高効率タイプに更新するなど設備面での取り組みを行いました。今後も目標達成に向けて、さまざまな環境負荷低減活動に積極的に取り組んでまいります。

社会から信頼され続けるために

伊藤ハムグループが真に社会から信頼され続けるために、社会貢献活動や食育活動、環境保全活動を継続することはもとより、人材の育成にも注力し、ワーク・ライフ・バランスや、女性活躍の推進、人材育成プログラムの開発など、多方面にわたってさまざまな課題にチャレンジし、全力でまい進いたします。

また、これらの活動につきましては、今後ともこの「CSR報告書」にて幅広く情報開示を行ってまいります。伊藤ハムグループの活動内容とその結果に対するステークホルダーの皆様のご理解と、皆様からの忌憚のないご意見・ご鞭撻を賜れば幸甚に存じます。

2013年10月

グループ方針

社 是 事業を通じて社会に奉仕する

経営方針

伊藤ハムグループは長期的な企業価値の向上を目指し、活力ある魅力的な企業、また、社会に貢献できる企業へ全社を挙げて取り組むことを基本方針としています。

企業理念

- 1 使 命 (ミッション)** 伊藤ハムグループは価値ある商品・サービスを提供することで、健全な生活の基盤となる「食べる」ことの喜びや楽しさ、大切さを伝えてまいります。
- 2 経営姿勢**
 - コンプライアンス(企業倫理の遵守)を徹底し、透明性の高い経営を行うことで、社会から信頼される企業を目指してまいります。
 - お客様に「安全」で「安心」な商品をお届けいたします。
 - 環境にやさしい企業活動を推進いたします。
 - 社員は会社の大切な財産です。能力主義・成果主義を重視し、何事にもチャレンジする活力ある職場を目指します。
- 3 行動規範**
 - あらゆる法令や会社の規則を遵守し、社会良識に沿って行動します。
 - 議論は自由闊達、且つ徹底的に行い、決めた事はすぐに実行し最後までやり遂げます。
 - 慣習にとらわれず、常に新しい発想で、自主的に行動します。
 - 「強く 正しく 逞しく」の伝統精神のもと、自己責任原則を徹底します。

経営ビジョン

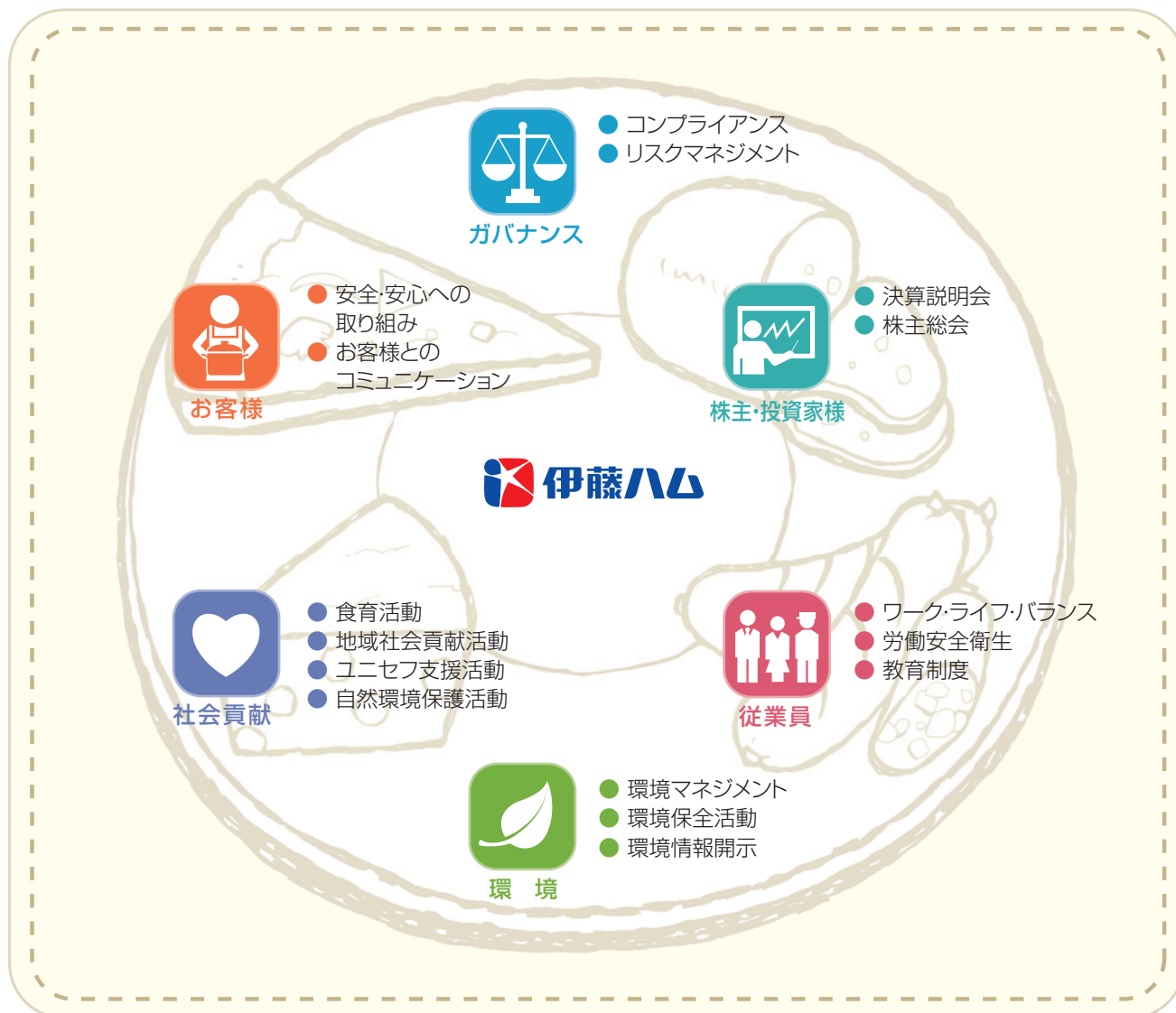
アジアの中で最も信頼される食肉加工メーカーになる

伊藤ハムグループは、企業規模や利益の追求だけを目的とせず、日本をはじめとしたアジア全体で、最も安全で安心な商品を提供している企業であるという信頼を得ることを目指します。

中期経営方針

- 1 コンプライアンス体制の更なる充実**
 - 引き続き体制の充実を図る。
 - 業務執行に対する監督機能の一層の強化。
 - 社外取締役の導入。
 - 社会貢献活動にも引き続き注力。
- 2 人材の育成**
 - ジョブローテーション／チャレンジ制度の構築。
 - 生産技術センターを設立し製造技術の伝承とレベルアップを図る。
- 3 営業力、生産力をはじめとする現場力の強化**
 - 価値を生み出す現場の力の充実・強化。
- 4 お客様目線での商品開発を伴うマーケティング力強化**
 - 新しい価値創造。
 - 商品開発／マーケティング部門への人材投入。
 - 業務用商品の開発力・マーケティング力強化。
- 5 コスト競争力の強化**
 - 経営資源をより効率的、効果的に使える強い筋肉質の企業体質へ。

伊藤ハムのCSR



■ お客様

お客様に「安全」で「安心」な商品をお届けし、健全な生活の基盤となる食べることへの喜びや楽しさ、大切さをお伝えし、お客様に満足していただけるようなさまざまな取り組みを行っています。

■ 社会貢献

良き企業市民として、地球環境への配慮と社会との共生を大切にして、社会貢献活動を持続的に推進します。

■ 環境

環境関連法を遵守するとともに、地域環境の保全と社会の共生に努めます。省エネルギー、省資源、及び廃棄物の排出削減を図り、リサイクルを推進するなど、環境保全活動によって、循環型社会の形成と地球環境負荷低減に貢献します。

■ 株主・投資家様

株主・投資家の皆様に株主還元を実施するとともに、さまざまな機会やホームページ、メディアを通じて、適時、適切な経営情報を開示し、良好な関係構築を図ります。

■ 従業員

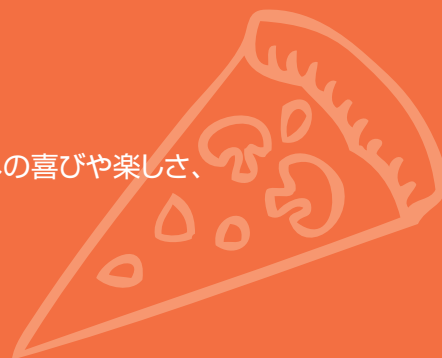
従業員は会社の大切な財産です。その人格や個性を尊重しつつ、自己実現が達成できる仕組みづくりに努め、何事にもチャレンジする活力ある職場、安全で安心して働ける職場環境の実現を目指します。

■ ガバナンス

社会の一員であるという認識を強く持ち、あらゆる法令や社会的規範、社会的良識に基づいて企業活動を行い、社会から信頼されるべく社会が真に必要な情報の開示や、事業を通じた社会貢献、環境に配慮した活動を行います。

お客様とともに

消費者の皆様に「安全」で「安心」な商品をお届けし、食べることへの喜びや楽しさ、大切さをお伝えするために、さまざまな取り組みを行っています。



Pickup

お客様の声に耳を傾け、絆を深める場として「もっとおいしくコミュニティ」を運営

「もっとおいしくコミュニティ」は、伊藤ハムが企画・運営するモニター組織です。「お客様の視点からの自由な発想によるご意見」によって弊社商品をより良い商品にすることを目的として、2004年11月よりスタートしました。メンバーは、30代～50代前半のご自身が調理を行う主婦層が中心です。メンバーの皆様からのご紹介によって、少しずつ登録メンバー数を拡大しており、2013年6月現在、470名の方が登録されています。

メンバーの皆様にはグループインタビューやアンケート調査に参加いただき、商品に対するご意見や生活意識について伺っています。2012年度には、関東・関西でそれぞれ10回のグループインタビューを開催したほか、Web上で年4回のアンケート

を実施しました。

このような活動を通じて収集したご意見は、商品開発や改良、マーケティング施策のヒントにさせていただいています。また、お客様とダイレクトにコミュニケーションできるという意味でも「もっとおいしくコミュニティ」は大切な役割を担っており、継続的な運用によってお客様との絆を深めていきたいと考えています。



もっとおいしくコミュニティモニターの声

友人の紹介でこの活動を知りました。毎日何気なく手にしていたハム・ソーセージ一つに研究・開発の努力が詰まっていることを知り、勉強になりました。また、参加者の方々と意見を交わす中で、我が家の食生活の問題点などにも気づくことができました。

もっとおいしくコミュニティ担当社員の声

今年度もモニター皆様の生の声を受けて社員が思いつかなかった料理方法など、新たな商品の可能性や問題点に気づくことができました。今後は調査結果をより一層商品開発にいかせるよう、商品企画担当者との連携強化を図っていきます。また、商品への意見を伺うことも大切ですが、消費者の皆様にご当社の商品づくりへの姿勢を理解していただき、安心感をもってもらえるようになればとも思っています。



加工食品事業本部 家庭用企画部 マーケティング推進室
眞島 明日香

安全・安心への取り組み

■ 推奨銘柄牛の履歴を検索できる「安全・安心システム」を適正に運用

伊藤ハムグループの推奨銘柄牛については、出生からお肉に至るまでの履歴を検索できる「安全・安心システム（トレーサビリティシステム）」を導入し、運用しています。

このシステムの履歴情報を正確なものとするために、国産牛の仕入を行う国内食肉本部では、と畜証明書など履歴管理に必要な書類を確認した上で、履歴情報を複数回チェックすることによって誤りを防止しています。



「安全・安心システム（トレーサビリティシステム）」について
ホームページ

<http://www.itoham.co.jp/farm/anzen/tracea/index.html>

■ 食肉事業本部の全生産事業所などで ISO22000 の認証取得を完了しています

伊藤ハムグループは、食品安全の国際規格である ISO22000 の認証取得を推進しています。

2005年12月にグループ会社であるサンキョーミート（株）有明ミート工場が、食肉業界で初となる ISO22000 認証を取得したの続き、2008年までに食肉事業本部の全生産事業所が認証取得を完了しています。

さらに、ハム・ソーセージの生産工場では、グループ会社である筑紫ファクトリー（株）北九州工場が2009年に認証を取得しました。



ISO22000適合証明証

■ 「表示・デザイン会議」の開催などを通じて、法令にのっとった分かりやすい表示を追求

“食品表示はお客様にとって重要な情報である”という考えのもと、CSR本部品質保証部、生産、調達をはじめとする関連部署が定期的に「表示・デザイン会議」を開催し、法令を遵守し、なおかつ分かりやすい表示とするための社内表示基準を策定しています。

また、伊藤ハムグループと協力工場では、表示に関する研修や勉強会を開催。2012年度は、新入社員や品質管理部門を対象とした表示に関する研修会なども実施しました。

品質保証勉強会担当社員の声

品質保証部による勉強会を社会情勢による法律や業界基準などの変更に合わせて行っています

2012年度は100回以上行い、関係部門の社員約1,000人が参加しました。

伊藤ハムの商品を選んで良かったと実感してもらえるよう、今後も衛生管理だけでなく、分かりやすい食品表示にも取り組んでいきます。



CSR本部 品質保証部
内部統制課
小山 敦

■ 安全・安心な商品をお届けするために、監査・点検を実施しています

安全・安心な商品をご提供するために、グループの各施設では、CSR本部品質保証部が定期的、臨時的な監査・点検を実施しています。また食肉製品の主力生産工場では監査員が常駐し、HACCP（総合衛生管理製造過程）に基づく適正な運用などについてチェックしています。

さらに、グループの営業所・物流・販売店舗のほか、社外協力工場でも監査を行っています。これらの監査の結果については毎月、執行役員会議で報告しています。

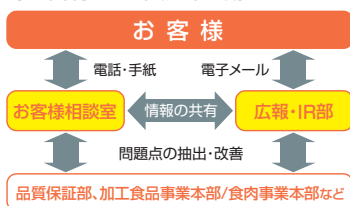
お客様とのコミュニケーション

■ お客様相談室へのお問い合わせに対して、誠意ある対応を迅速に行っています

伊藤ハムグループお客様相談室では、フリーダイヤル、ホームページ、お手紙などを通じて、お客様からお問い合わせ・ご意見をいただいています。2012年度には、総数約13,500件のお問い合わせ・ご意見をいただきました。

特にお問い合わせについては、電話で内容を詳しく伺い、誠意ある対応を迅速に行うよう心がけています。また、ご指摘いただいた内容は関係部署と情報を共有し、問題点の抽出・改善に努めています。

〈お客様の声伝達経路〉



■ お客様から寄せられた声は、商品パッケージの改善などに役立っています

お客様相談室では、お客様からお寄せいただいた商品についてのご意見・ご要望を関係部署に伝え、伊藤ハムブランドの商品パッケージの表示・デザイン、形態の改善、開発に役立っています。

2013年度は、お客様からいただいた声に基づいて、「商品ごとの特徴」、「食べ方・保存方法」などについてまとめた小冊子『ハム、大好き! (保存版)』を作成し、ギフト商品に封入しました。



『ハム、大好き! (保存版)』
※ 2013年 お中元より封入

■ お客様とのコミュニケーション強化のためにSNS(ソーシャルネットワーキングサービス)に公式サイトを開設

より多くの皆様に伊藤ハムのファンになっていただき、ブランディング※1の強化を図る目的で、2011年からSNSの公式コミュニティサイトをFacebook上に設け、運営しています。このサイトでは順調にファン数が増加し、エンゲージメント率※2においても高い数字を達成しています。

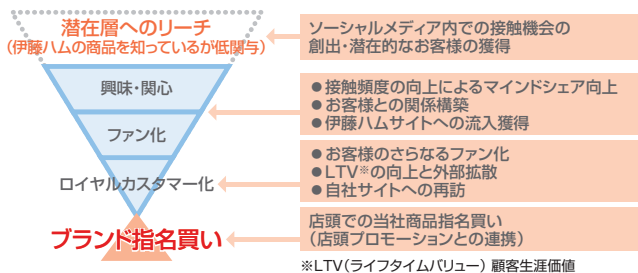
〈ソーシャルメディア展開の概要〉



今後も、こうした活動を積極的に展開していくことで、お客様とのコミュニケーションの充実を図るとともに、高いエンゲージメント率を維持していきたいと考えています。

※1 ブランディング：企業が顧客にとって価値のあるブランドを構築するための活動。
※2 エンゲージメント率：どれだけファンからの反応を得られているのかを表す指標。

〈ソーシャルメディアマーケティング施策の目的〉



※LTV(ライフタイムバリュー) 顧客生涯価値

SNSコンサルティングの声

ハム係長を中心にファンの皆様を楽しめるコンテンツをこまめに更新しています

他の企業は販促を目的としたものが中心なのに対し、伊藤ハムさんのSNSはFacebookの“ファン”やGREEの“友だち”との間のコミュニケーションを最重要視しています。

今後はソーシャルメディアだけでなく、リアルイベントによるファンの皆様との交流や店頭と連動した企画なども期待しています。



株式会社トライバル
メディアハウス
SMMコンサルティング部
中山 領さん

SNS担当社員の声

多くのお客様とやり取りをさせていただき、SNSの反響の大きさを感じています

いつもお客様と楽しくやり取りをさせていただいております。SNSをお客様との関係づくりを強化していくツールとして活用していければと思っています。

今後もファンの皆様が飽きないような投稿をしていきますので、ぜひSNSサイトにお越しください!



管理本部 広報・IR部
IR・Web広報室
関澤 昌弘

株主・投資家様とともに

株主・投資家の皆様に株主還元を実施するとともに、
長期的な企業価値の向上を目指し、経営情報を開示します。



企業情報開示・IR活動

■ ホームページによる情報開示

伊藤ハムではホームページにおいて、適時適正な情報開示に努めています。



「伊藤ハム」ホームページ

<http://www.itoham.co.jp>

「株主・投資家の皆様へ」ホームページ

<http://www.itoham.co.jp/corporate/ir/syaze.html>

■ 株主様向け報告書の発行

株主様向けの報告書を年に2回発行し、財務情報などをタイムリーにお伝えしています。

■ 決算説明会

決算および第2四半期決算発表後、アナリスト・機関投資家様などを対象に決算説明会を開催しています。説明会資料については、ホームページにも掲載しています。

開かれた株主総会を目指して

近年、会社を取り巻く社会情勢がめまぐるしく変化している中、株主総会は経営方針を決定する場としてその重要性が高まっています。

伊藤ハムでは最高意思決定機関である株主総会を、株主の皆様と直接、意見を交換できる貴重な場と位置づけ、開かれた株主総会を目指しています。その一環として、招集ご通知の役員選任候補者の顔写真の掲載、「見やすく読み間違えにくい」ユニバーサルデザインフォントの採用

といった取り組みを新たに実施しています。

また、株主総会においては、事業報告と計算書類などの報告では、ナレーションと映像を用いてご説明し、株主の皆様に、よりご理解していただけるよう努めています。

質疑応答においては、「少子高齢化社会への対策やそれに対応した商品開発」「女性の活用」「CNV2015の進捗について」など、のべ10名の株主様から19項目にわたるご質問と貴重なご意見をいただきました。



株主優待制度

伊藤ハムでは、株主の皆様に感謝の意を表すとともに、弊社の製品をより身近に感じていただくことを目的として、毎年3月31日現在で1,000株以上所有されている株主の皆様に対し、年1回(時期6月)、5,000円相当の弊社製品を贈呈いたします。

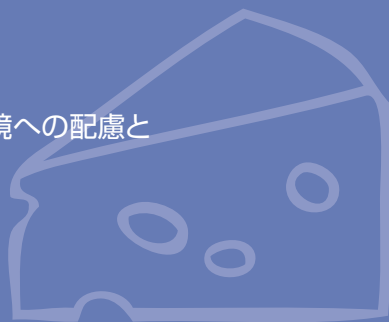


平成25年6月送付の当社製品贈呈例

社会貢献活動

伊藤ハムグループの基本理念のもと、良き企業市民として、地球環境への配慮と社会との共生を大切にして、社会貢献活動を持続的に推進します。

- 社会貢献活動方針
1. 「食と健康」の分野で、世界の人々に役立つ活動を行います。
 2. 地域社会の良き一員として貢献し、信頼関係を築きます。
 3. ユニセフ活動および国内外の被災地救済活動を支援します。
 4. 森林や河川などの自然環境保護活動を支援します。
 5. 従業員の意思と責任に基づくボランティア活動を支援します。



1. 「食と健康」の分野で、世界の人々に役立つ活動を行います。

■ 食育活動理念

伊藤ハムは、健全な生活の基礎となる「食」の大切さや楽しさを伝え、今、求められている「家族揃っての食事」が、語らいや団らんを育むことを伝えてまいります。

コーポレートメッセージ あふれる笑顔

お客様の「あふれる笑顔」を実現させるために、食育活動を推進してまいります



「食」に対する興味・関心を高めていただくために、「手作りウインナー教室」などを実施

「食」に対する興味・関心を高めていただくことを目的に、「手作りウインナー教室」や「ピザ・シチューパイ作り教室」を工場見学とともに実施するほか、数々の食育イベントを行っています。

2012年度に参加した皆様からは次のようなご意見をいただきました。

手作りウインナー教室

西宮工場で、ウインナー作りと試食などを体験していただきました。



参加者の声

衛生管理もきちんとされており、これからも安心して伊藤ハム商品を食べられます。今日一日で伊藤ハムに愛着がわきました。

ピザ・シチューパイ作り教室

神戸工場では、地域住民のご家族にピザ生地から作っていただきました。



参加者の声

ピザの製法が、手作りに近い製法ということに感動しました。

豚肉のカッティング教室

肉の整形の実演を行い、「食」の大切さを学んでいただきました。



参加者の声

大きな塊の豚肉を初めて見て、改めて生き物をいただいているということを実感。感謝の気持ちがわきました。

2. 地域社会の良き一員として貢献し、信頼関係を築きます。

■ “食とeco”わくわく探検隊

食べ物と環境のかかわり、自然環境と生命の大切さを伝えることを目的に実施しています。

地球にやさしい炊事や、自然観察を行います。



エコロジー
クッキングに挑戦



エコロジークッキングの説明

■ 本社・西宮工場の清掃活動が西宮市の「道路愛護功労者」として表彰されました

伊藤ハムでは、毎年のべ2,000人以上の従業員が全国の事業所周辺の清掃活動を実施しています。

西宮市は、毎年8月10日の『道の日』に、永年にわたって道路清掃などに取り組む団体・企業などを「道路愛護功労者」として表彰しています。この度、本社・西宮工場の周辺において、当社が10年間毎月実施してきた清掃活動がその対象となり、2012年8月10日、西宮市長から感謝状をいただきました。

この表彰については、当社が社会貢献活動の一環として継続して取り組んできた活動が、地元の皆様に評価いただいたものと考えています。



感謝状の授与

3. ユニセフ活動および国内外の被災地救済活動を支援します。

■ タンザニアの子どもたちを栄養不良から守るユニセフの活動を継続的に支援

伊藤ハムは、タンザニアの子どもたちを栄養不良から守るためのユニセフの活動を支援する「タンザニア支援プロジェクト」を2008年から継続して実施しています。

このプロジェクトは、当社対象商品の売り上げの一部を寄付することで、ユニセフがタンザニアで展開する栄養支援プログラムを支援するものです。

お客様のプロジェクトへのご賛同に加えて、グループ会社を含めた250カ所の事業所から従業員募金を集め、2012年度には1,067万6,180円をユニセフへ寄付し、2008年度から2012年度までの寄付総額は、7,645万7,372円となりました。

これらは全額、ユニセフがタンザニア連合共和国ザンジバル島とペンバ島で展開する「タンザニア栄養支援プログラム」に充てられており、医療スタッフの育成、栄養補助食品の提供に活用され、プログラムの成果拡大に貢献しています。



4. 森林や河川などの自然環境保護活動を支援します。



従業員とその家族もボランティアとして参加する「こうべ森の学校」が発足10周年を迎えました

「こうべ森の学校」は六甲山系の再度山(ふたたびさん)を拠点に、市民・行政・企業が協働し、神戸市が進める「六甲山これからの百年の森づくり」を推進する森林保全育成活動です。10年間にのべ13,000人の市民の方が参加され、28haの森を整備しました。

当社は、自然環境保護活動の一環として「こうべ森の学校」に活動資金を提供し、従業員ボランティアを派遣しています。2013年4月21日には発足10周年を記念した式典が開催され、当社従業員とその家族41名を含む159名のボランティアが参加、過去最多の参加者数を記録しました。

当社は、「こうべ森の学校」をこれからも継続して支援し、森林保護活動を積極的に実施します。



「こうべ森の学校」



感謝状の授与



森の手入れ

5. 従業員の意思と責任に基づくボランティア活動を支援します。

■ 社会貢献推進期間

毎年9月～10月を『伊藤ハム社会貢献推進期間』と定め、従業員の意識向上と積極的な社会参加を目的とした活動を各地区で実施しています。

■ 社会貢献表彰制度

顕著な社会貢献活動を継続して実施している従業員を表彰する制度を設けています。

■ ボランティア休暇制度

ボランティア活動に参加する場合、取得できる「ボランティア休暇制度」を設けています。

■ ボランティア体験イベント

ボランティア意識向上と、社会貢献活動への参加を促すために、「ボランティア体験イベント」を開催しています。

■ 従業員ボランティアによるイベントを開催

従業員ボランティアが運営する社会貢献イベントを各地で開催しています。

従業員とともに

従業員は、会社の大切な財産です。何事にもチャレンジする活力ある職場、安全で安心して働ける職場環境の実現を目指します。



Pickup

ワーク・ライフ・バランス

「ワーク・ライフ・バランス推進プロジェクト」を立ち上げました

「企業の持続的な成長のために、すべての従業員が生きがいを感じながら、その能力を存分に発揮できる職場環境づくりが重要」と考え、ワーク・ライフ・バランスを推進しています。

2013年1月にはグループ全従業員を対象とした意識調査の結果を受け、4月に「ワーク・ライフ・バランス推進プロジェクト」を立ち上げました。このプロジェクトでは重点課題の改善に向けて、取り組み計画と数値目標を策定し、2013年度中に経営トップへ提言する計画です。

段階的な制度拡充によって、仕事と育児の両立を支援

伊藤ハムは、従来から「育児休業者職場復帰支援プログラム」「短時間勤務制度」「時差勤務制度」などを整備していましたが、2011年には計画有休制度の日数を年間3日から4日へ増加させました。

2013年には「第五次次世代育成支援行動計画」のもと、育児休暇をはじめとする支援制度のさらなる拡充によって、仕事と育児の両立を支援しています。



次世代認定マーク「くるみん」



ハムママコミュニティ

ワーク・ライフ・バランス担当社員の声

近年、仕事と育児の両立支援制度の整備を進めてきた結果、結婚・出産後も働き続ける女性従業員が増えてきました。

今後も意識調査の結果などを踏まえて、研修、キャリア支援、ジョブリターン制度などの拡充を進め、従業員が家庭と仕事を両立できるようにしていきたいと思っています。

管理本部 人事総務部
人事政策室
鈴木 真理子



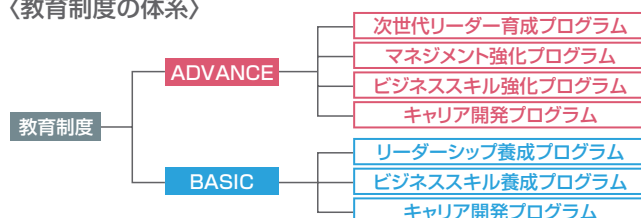
教育制度の充実

■ 従業員の成長と組織の発展に向けて、教育制度の充実に努めています

従業員一人ひとりの成長と組織の発展に向けて、教育制度において全従業員を対象とした「BASICコース」と、人や組織のマネジメントに必要なスキルの習得と強化を目的とした「ADVANCEコース」の2つを設け、それぞれに教育プログラムを用意しています。

なお、高い成長意欲を持つ従業員に対し積極的に学習の場を提供するため、教育研修の多くは応募型を採用しています。

〈教育制度の体系〉



■ 中長期的な視点に立った人材活用策として、ジョブローテーションなどを実施

中長期的な視点に立ち、キャリア面談に加えて、同一部署での長期滞留による弊害を排除すべくジョブローテーションを実施しています。また、やる気のある人材の活用を促進するために、「社内フリーエージェント」などのジョブチャレンジ制度を導入・強化しています。

■ メンター制度の導入によって、新入社員・若手社員の即戦力化を促進

新入社員・若手社員の能力を迅速に向上させ、早期かつ着実に即戦力へと育成するために、2012年度にメンター制度を導入しました。職場と会社が一体となって、この制度を運用することで、計画的・重点的・継続的に新入社員の育成・指導に注力しています。

教育担当社員の声

メンターたちは後輩を育成することの感動を体感し、大きく成長したと思います

実はメンター制度を取り入れたことの一番大きな効果は、新入社員を教えるメンターたちの成長です。また、彼らを支える上司たちの存在もあって、職場、会社一体となって人材育成の基盤づくりをスタートできたことは大きな収穫です。

今後は研修のアフターフォローを充実させ、自ら考え、主体的に行動できる人材の育成を進めていきたいと思っています。



管理本部人事総務部
人材開発室

位田 明子

労働安全衛生

■ 労働安全衛生方針

伊藤ハムグループは、すべての人が安全に安心して働ける職場環境を実現するため、労働安全衛生管理に取り組んでいます。

■ 安全衛生教育

新入社員の入社時集合研修では、安全に仕事をするための基本を身につけるために、「安全衛生の基本」の講義を行っています。

また、生産工場などでは、作業手順教育や労働災害同種災害防止教育など、安全衛生教育を繰り返し実施し、不安全行動の撲滅、従業員の安全衛生意識向上に努めています。



「安全衛生の基本」の講義

■ 安全衛生監査

「労働安全衛生関係法令、社内ルールの遵守徹底」と、「労働災害や職業性疾病の発生防止」を目的として、CSR本部が年度の安全衛生監査計画に基づき、主要事業場の監査を実施し、遵法の指導と危険要因の改善に取り組んでいます。

健康管理

健康情報

お客様に信頼していただける仕事をするために心身の健康は必要不可欠なものです。

伊藤ハム健康保険組合では、人間ドック、がん検診の受診費用補助や禁煙サポート、ウォーキングイベントなどの疾病予防や体育奨励事業を推進するとともに、広報誌「きらり」やホームページを活用して、従業員とその家族に向けて健康情報を発信しています。

メンタルヘルス

伊藤ハムグループ「心の健康づくり計画」に基づき、グループ内の推進体制の構築や「医療法人あけぼの会メンタルヘルスセンター」との提携によるEAP(従業員とその家族を対象とした従業員支援プログラム)の導入を進めています。

不調者への対応だけでなく、職場のコミュニケーションの活性化や生産性の向上にも取り組んでいます。



メンタルヘルスのポスター

メンタルヘルスセンターの声

働きやすい環境づくりのために

管理者、一般社員、新入社員、メンタルヘルス推進担当者と階層別に13回講習を実施し、うつ病やストレスへの対処法などをお伝えしました。

伊藤ハムさんはメンタルヘルス啓発活動、復職支援が充実している点が評価できます。今後も働きやすい職場づくりを目指していってほしいと思います。



医療法人あけぼの会
メンタルヘルスセンター
平賀 光美さん

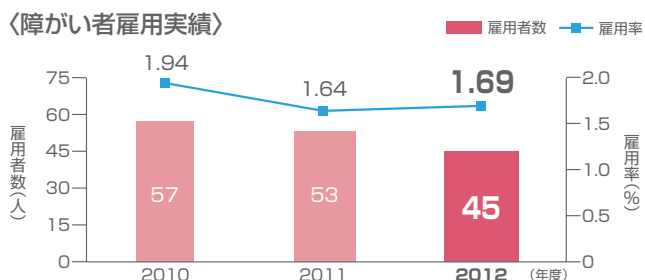
ダイバーシティの尊重

障がい者雇用率の向上に向けて、求職者確保や職場定着の促進に努めています

伊藤ハムの障がい者雇用率は2013年6月現在、1.78%です。2.0%の法定雇用率達成を目指して、当社は就労支援センターや支援学校、職業安定所などからのご協力のもと、職場見学会や合同説明会を開催し、求職者を確保するとともに、適用業務の拡大にも努めています。

さらに、入社後のフォロー策として、支援ワーカーやジョブコーチと連携して職場への定着を図るなど、障がい者が安心して働ける職場づくりにも努めています。

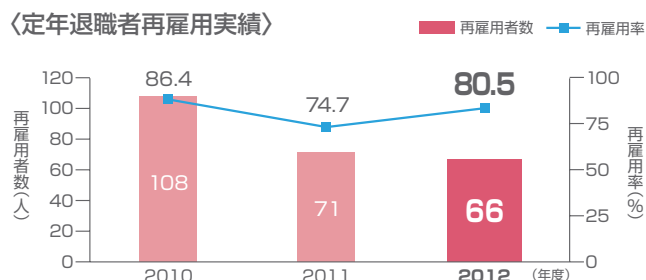
〈障がい者雇用実績〉



定年退職者再雇用制度を拡充し、2012年度は66名を再雇用しました

2006年に「定年再雇用制度」を拡充し、定年を迎える1年前(非正社員は半年前)に本人の意志を確認して最長65歳まで再雇用を継続する制度を導入。2012年度は、単体で定年退職者の約80.5%にあたる66名(グループ全体では定年退職者の約81.5%にあたる128名)を再雇用しました。

〈定年退職者再雇用実績〉



ガバナンス

ステークホルダーの皆様からの信頼を高め、健全で誠実な企業経営を行ううえで守るべき考え方を「企業倫理規範」として策定しています。企業価値の持続的な向上を実現するためには、高い企業倫理観に基づく公正な企業経営を徹底することが基本であると考え、コンプライアンス(企業倫理の遵守)の強化に取り組んでいます。



企業倫理規範(コンプライアンスの原則)

1. 公正な活動

伊藤ハムグループは、会社が社会の公器であるとの自覚と責任のもと、常に社会的良識に沿って公正に行動します。

2. 倫理観と遵法の精神

常に遵法を心がけ、確固たる倫理観をもって誠実に事業活動を行います。

3. 関係法令の社内徹底

事業活動に必要な関係法令の収集とその理解に努め、その遵守を確実にするため、社内規程の制定と教育・アナウンスなどを通じて社内徹底を図ります。

4. 法令違反の早期是正と厳正対応

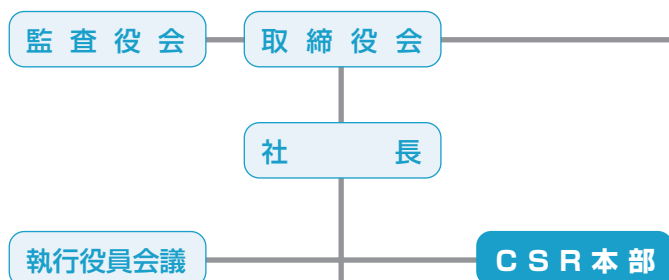
業務遂行活動が関係法令や社会的良識に反する場合は、速やかにその違反状態を是正し、再発防止に努めるとともに、違反行為に対して厳正に対処します。

組織体制

伊藤ハムグループでは、CSR本部が中核となって、従業員のコンプライアンスに対する意識の向上、実践の企業風土づくりを進めるとともに、内部監査体制の強化・拡充に努めています。

CSR本部は、コンプライアンス違反行為への改善指示を行う権限を持つとともに、監査による問題点の早期発見、取締役会への報告などの責任を負っています。

〈CSR推進組織図〉



〈推進活動内容に対する基本的な考え方〉

- ・社会的な常識を正しく認識するための情報提供と指導
- ・社内の問題点を早期に発見し、改善につなげるための積極的な活動
- ・社内各事業本部(本部)機能、管理部門の連携
- ・特定の部署や個人が情報を囲い込むことがないよう、風通し良く開かれた組織風土、企業体質の確立
- ・社内外の声を真摯に聞く、開かれた姿勢
- ・マイナス情報を含めた積極的な社内外への情報発信による説明責任の履行

CSR委員会

【役割】 第三者の目でCSR体制をチェックし、その結果を取締役に提言します。

【構成】 委員長: 島田 恒(経営学博士/神戸学院大学講師)
委員: 石井 隆(取締役常務執行役員)
(順不同) 市田 健一(取締役執行役員)
今村 昭文(非常勤監査役/弁護士)
小谷 健二(CSR本部長)
篠原 智彦(伊藤ハム労働組合中央執行委員長)
事務局: CSR本部コンプライアンス推進室

コンプライアンス責任者会議

【役割】 各部署での課題・問題を全社で共有します。

【構成】 議長: 社長
副議長: CSR本部長
メンバー: 各部門長
事務局: CSR本部コンプライアンス推進室

コンプライアンス



コンプライアンス委員が職場での実践を支援

グループ全体で305名のコンプライアンス委員が、担当職域内でコンプライアンスの推進と定着を目指し、コンプライアンスチェックやルール周知

担当社員の声

2012年度は、各委員に対し、コンプライアンス委員ミーティングを年間3回実施しました。2011年度には193名だった委員が305名と大幅に増えたことで、従業員がコンプライアンス活動をより身近に感じることができるようになったと思います。今後は委員同士が議論し、会社に取り組みを提案できるような主体的活動になっていくことが目標です。

などの活動を展開しています。

また、定期的に行われるコンプライアンス委員ミーティングでは、委員に求められるスキルの向上を図っています。



CSR本部 コンプライアンス推進室
坂田 健

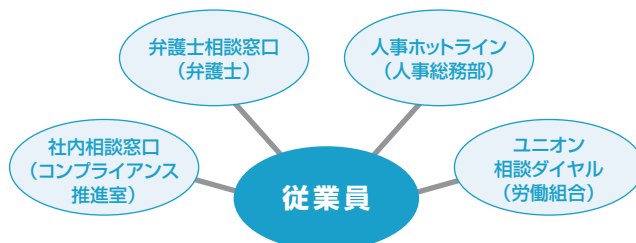
■ コンプライアンスに関するルールを明確化し、規程を整備しています

コンプライアンスに関するルールを明確化し、従業員への周知を図るために、「コンプライアンス推進規程」をはじめとする規程を整備しています。

コンプライアンス推進規程	コンプライアンスの実践やコンプライアンス推進体制などについて定めています。
社内通報規程	相談窓口の対応手順や通報・相談者の保護などについて定めています。
内部者取引管理規程	証券取引および関連法規に違反する内部者取引を未然に防止するために、役職員の職務に関して取得した未公表の内部情報(重要事実と同義)の管理、役職員の株式等の売買その他の取引および役職員の職務に際して遵守すべき基本的事項を定めています。
個人情報取扱規程	個人情報の取得、保管、利用、廃棄のプロセスを定めています。

■ 複数の相談窓口を設けてコンプライアンスに関する相談に対応

従業員がコンプライアンスに関して困ったとき、悩んだときの相談先として、コンプライアンス推進室の「社内相談窓口」など4つの窓口を設置しています。



また、社外からのお申し出については、ホームページとお客さま相談室(フリーダイヤル:0120-011186)で承っています。

リスクマネジメント

■ 法令違反リスクとその防止をチェックし、リスクマネジメントやBCPに取り組んでいます

事業部門ごとに業務や取引に関連する法令を抽出し、モニタリング活動をするリーガルリスクマネジメント、また自然災害を想定したBCPの取り組みを行っています。

公正な取引

■ 下請法はもちろんとして、取引先と公正な取引を行っています

業務、取引に関連する従業員には、年1回の講習を行い、法令遵守を徹底しています。

情報セキュリティ

■ リスク評価を継続的に行うなど情報セキュリティの維持・強化に努めています

従業員のIT利用について、社会倫理に反する利用や、お客さまを含めた一般社会に不利益を与える利用などを厳しく制限するとともに、情報資産にかかわるリスクを継続的に評価し、従業員教育にも組み込むことで、情報セキュリティの維持・強化に努めています。

環境保全活動

地球環境問題を重要な経営課題として認識した上で、地球環境を保全するために、環境関連法を遵守するとともに、省エネルギー、省資源、廃棄物・温暖化物質・オゾン層破壊物質の排出削減を図り、廃棄物の資源リサイクルを推進します。これらの取り組みによって、循環型社会の形成と地球環境負荷低減に貢献します。



環境宣言

弊社は創業以来「事業を通じて社会に奉仕する」ことを社是として、食品の安全と品質の向上に努め、食文化と社会の発展に寄与してまいりました。

一方、1980年代後半から環境問題が地球規模となり、経営の新しいパラダイムが求められてまいりました。私たち

はこの変化に対応し、継続的な環境保全と自然との調和・共生に配慮した事業活動を通じて、経営品質の高揚を図るべく新たに環境にかかわる基本理念を掲げ、全従業員が一丸となった活動を展開することを宣言します。

基本理念

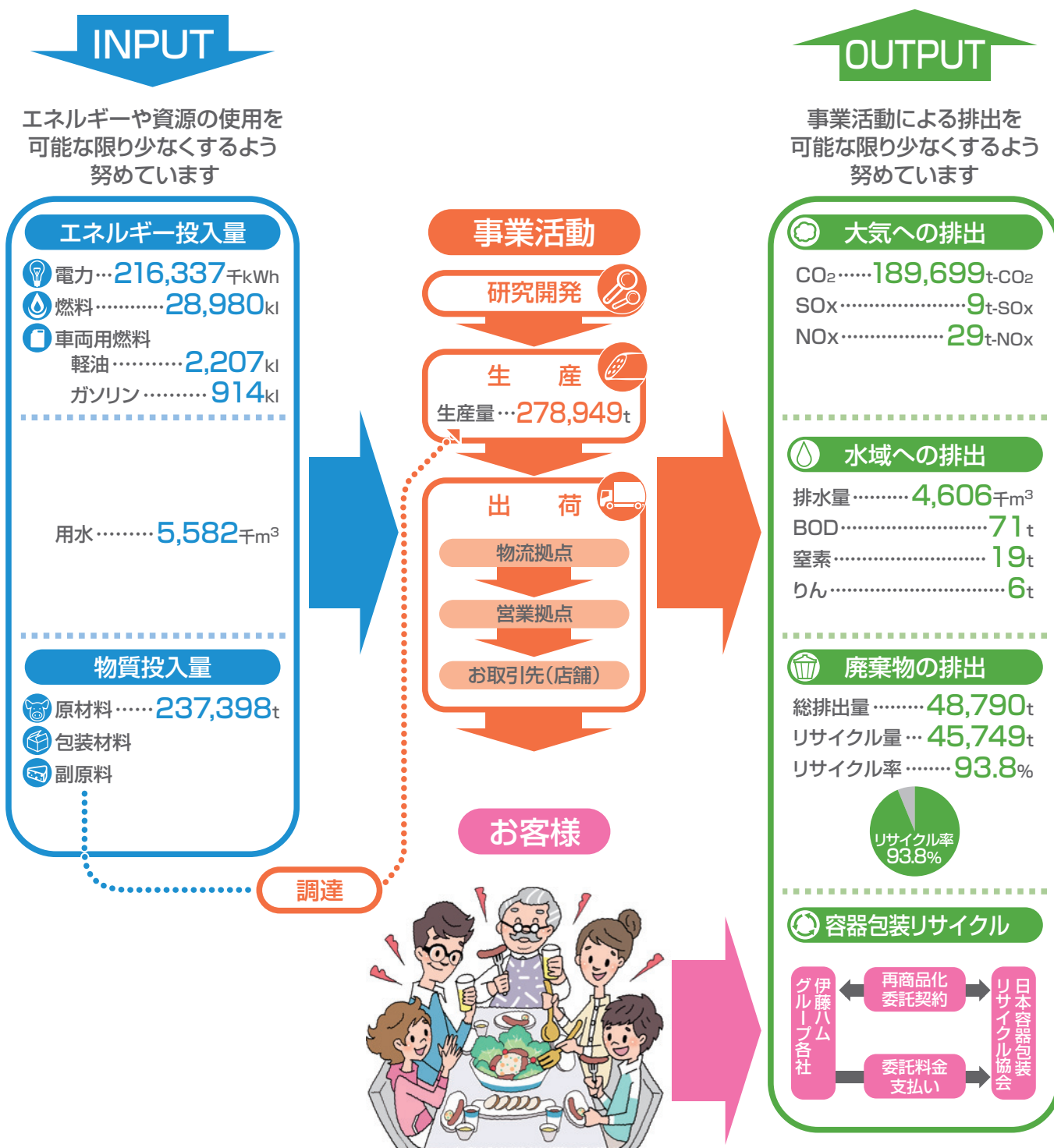
私たちは地球規模の環境保全が、人類共通の最重要課題の一つであることを認識し、事業活動を通じて環境に配慮し、

その保全と社会との共生を図る努力を持続的に実践してまいります。

行動指針

1. 開発から使用・廃棄に至るすべての過程で環境影響に十分配慮した商品、及びサービスの開発推進を行います。
2. 環境に及ぼす影響を考慮し、環境目的・目標を定め、定期見直しにより環境保全の継続的改善を図ります。
3. 環境関連法・規制・条例・協定を遵守し、自主管理基準を定め環境保全活動に努めます。
4. 省エネルギー、省資源、及び廃棄物・温暖化物質・オゾン層破壊物質の排出削減を図るとともに、廃棄物の資源リサイクルを推進し、循環型社会形成の対応と地球環境負荷低減に努めます。
5. 外部・内部監査を定期に実施し、自主管理の徹底を図ります。
6. 社内外の環境教育及び社内広報活動を通じて、従業員に環境基本方針の理解と環境保全意識の向上を図ります。
7. 海外事業活動において、当事国における環境保全に十分配慮します。
8. 環境基本方針及び環境保全と活動結果について、CSR報告書により情報開示します。

環境負荷の全体像



対象範囲

■伊藤ハム(株)神戸、六甲、西宮、豊橋、東京各工場、本社事務所、東京事務所、名古屋事務所、中央研究所 ■伊藤ハムデイリー(株)東北、小樽、北陸各工場、営業部 ■伊藤ハムウエスト(株)九州工場、営業部 ■浅草ハム(株)関東工場 ■ハーバーデリカテッセン(株)四日市工場 ■筑紫ファクトリー(株)北九州工場 ■ロイヤルデリカ(株)本社工場、岡山事業所 ■(株)菊水本社工場、サッポロファクトリー ■サンキョーミート(株)有明ミート工場、霧島ミート工場 ■IHミートパッカー(株)関西、名古屋、東京、宮城、十和田各ミートセンター ■IHミートソリューション(株)九州、神戸、川崎、仙台、札幌各パックセンター ■沖縄フレッシュパック(株) ■(株)藤栄 ■伊藤ハム販売(株) ■伊藤ハムフードソリューション(株) ■伊藤ハムミート販売東(株) ■伊藤ハムミート販売西(株) ■アイエイチロジスティクスサービス(株)

第4次中期環境目標の取り組み結果と自己評価

2012年度はボイラーや冷凍機、変圧器の更新、夏期に工場屋根への散水、蒸気ドレン水の回収・再利用等を実施し、次の通りの結果となりました。

〈第4次中期環境目標〉

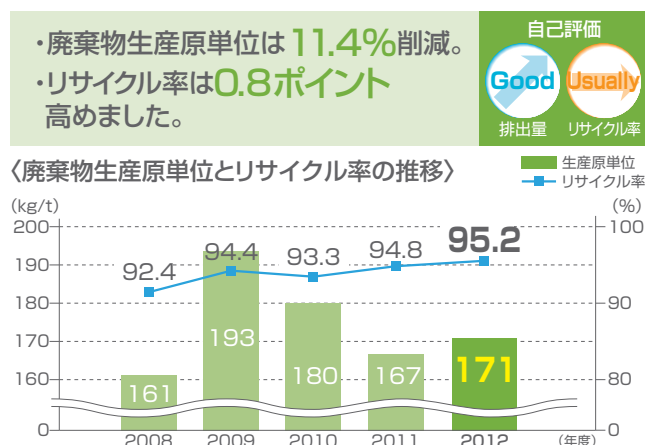
項 目		指 標	基準年度 (2009年度)	2012年度目標値		2012年度結果		自己評価
				数 値	増 減	数 値	増 減	
①省エネルギー、省資源の推進		総エネルギー使用量(GJ/t)	11.8	11.4	▲3%	10.5	▲11.0%	
		用水使用量(m³/t)	22.1	21.4	▲3%	19.9	▲10.0%	
②廃棄物の削減とリサイクルの推進		廃棄物排出量(kg/t)	193	187	▲3%	171	▲11.4%	
		リサイクル率(%)	94.4	100.0	5.6ポイント	95.2	0.8ポイント	
③温室効果ガスの排出削減		二酸化炭素(CO ₂)排出量(kg-CO ₂ /t)	679	659	▲3%	599	▲11.8%	
④グリーン購入の推進	金額ベース	事務用品のグリーン購入率(%)	98.5	100.0	1.5ポイント	90.3	▲8.2ポイント	
	数量ベース	事務機器のグリーン購入率(%)	100.0	100.0	0.0ポイント	100.0	0.0ポイント	
⑤環境管理体制の充実		・グループ会社のISO14001認証取得推進 ・環境監査の継続実施						

①～③は生産原単位 総エネルギー：熱量換算(購入電力+燃料+購入蒸気) ④は単年度目標は設定していません。継続して推進、実施します。

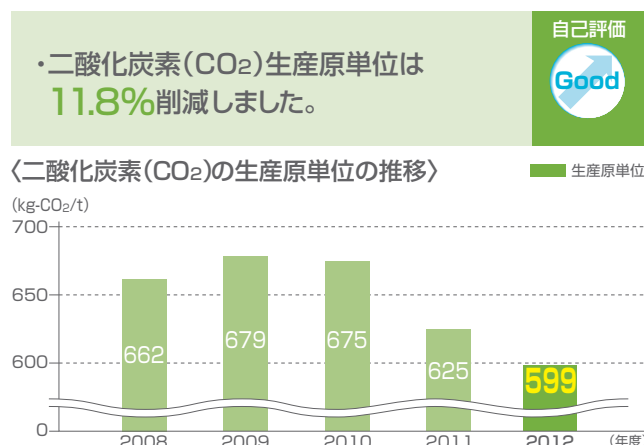
1. 省エネルギー、省資源の推進



2. 廃棄物の削減とリサイクルの推進



3. 温室効果ガスの排出削減

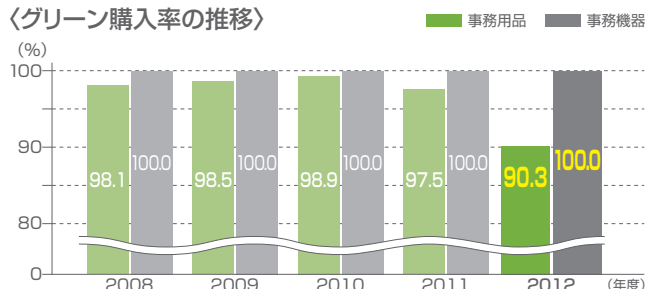


4. グリーン購入の推進

- ・事務用品のグリーン購入率は
8.2ポイント下がりました。
- ・事務機器は**100%**を維持しました。



〈グリーン購入率の推移〉



〈自己評価〉



2012年度の実績が目標値の100%以上でした。



2012年度の実績が目標値を下回りましたが、基準年度より改善されました。



2012年度の実績が基準年度を下回りました。継続して、より一層取り組みを進めます。

対象範囲1、2、3

- 伊藤ハム(株)神戸、六甲、西宮、豊橋、東京各工場 ■伊藤ハムデイリー(株)東北、小樽、北陸各工場 ■伊藤ハムウエスト(株)九州工場
- 浅草ハム(株)関東工場 ■ハーバーデリカテッセン(株)四日市工場 ■筑紫ファクトリー(株)北九州工場
- ロイヤルデリカ(株)本社工場、岡山事業所 ■(株)菊水本社工場、サッポロファクトリー ■サンキョーミート(株)有明ミート工場、霧島ミート工場
- IHミートパッカー(株)関西、名古屋、東京、宮城、十和田各ミートセンター ■IHミートソリューション(株)九州、神戸、川崎、仙台、札幌各パックセンター
- 沖縄フレッシュパック(株) ■(株)藤栄

対象範囲4

- 伊藤ハム(株)本社事務所、東京事務所、神戸、六甲、西宮、豊橋、東京各工場 ■伊藤ハムデイリー(株)東北、小樽、北陸各工場
- 伊藤ハムウエスト(株)九州工場 ■浅草ハム(株)関東工場 ■ハーバーデリカテッセン(株)四日市工場 ■筑紫ファクトリー(株)北九州工場

第5次中期環境目標

「第4次中期環境目標」に基づく取り組みに引き続き、生産量や品目、拠点数など近年の生産状況とのマッチングを図って、2013年4月からの3カ年を対象期間とした「第5次中期環境目標」を策定しました。

新たな目標達成を目指し、全従業員が一丸となって環境負荷低減活動を進めています。

〈第5次中期環境目標〉

項 目	単 位	基準年度 (2012年度)	単年度目標(基準年度比)		
			2013年度	2014年度	2015年度
①総エネルギー使用量削減	生産原単位(GJ/t)	10.5	10.4(▲1%)	10.3(▲2%)	10.2(▲3%)
②用水使用量削減	生産原単位(m ³ /t)	19.9	19.7(▲1%)	19.5(▲2%)	19.3(▲3%)
③廃棄物排出量削減	生産原単位(kg/t)	171	169(▲1%)	167(▲2%)	165(▲3%)
③廃棄物のリサイクル推進	リサイクル率(%)	95.2	96.1(+0.9ポイント)	97.0(+0.9ポイント)	98.0(+1.0ポイント)
④CO ₂ 排出量削減	生産原単位(kg-CO ₂ /t)	599	593(▲1%)	587(▲2%)	581(▲3%)
⑤グリーン購入の推進	事務用品	購入率(%) (金額ベース)	90.3	92.9(+2.6ポイント)	95.5(+2.6ポイント)
	事務機器	購入率(%) (数量ベース)	100	100	100

●2012年度の実績を基準値として、最終目標年度を2015年度とした3カ年計画

5. 環境管理体制の充実

環境監査を実施し、問題点の早期発見、早期是正に取り組んでいます。

項 目	2012年度の結果
ISO14001	認証取得の増減はありません。
環境監査	84事業所で実施。

環境マネジメント

■ 環境保全活動の効果を高めるために、環境マネジメントシステムを構築・運用しています

伊藤ハムグループは、環境保全活動の効果を高め、持続可能な社会の構築に貢献するために、環境マネジメントシステムを構築し運用しています。主要な生産工場では、ISO14001の認証を取得しています。

■ 環境課題へ迅速かつ円滑に対応するために、環境管理体制を構築しています

省エネルギーや省資源、廃棄物の資源リサイクルなどの課題に対して迅速かつ円滑に対応するために、環境管理体制を構築しています。環境基本方針や目標設定などの全社的な事項は「環境委員会」で審議・決定しています。

〈環境マネジメント組織体制〉



■ 活動のさらなるレベルアップを図るために環境監査を実施しています

各事業所による内部環境監査に加えて、環境保全活動のさらなるレベルアップを図るために、CSR本部監査室が主要事業所の監査を実施しています。2012年度は、合計84事業所の監査を実施しました。

■ 環境関連法、協定で定められた規制値など法令遵守に万全を期しています

「大気汚染防止法」、「水質汚濁防止法」をはじめとする環境関連法や、環境保全協定などで定められた規制値を守るとともに、事業所ごとに行う内部監査やCSR本部監査室による環境監査を実施し、指摘事項には迅速に対処し是正を図ることで、法令の遵守に万全を期しています。

〈環境関連法一覧〉

▶ 大気汚染防止法	
▶ 水質汚濁防止法	
▶ 特定工場における公害防止組織の整備に関する法律	
▶ 廃棄物の処理及び清掃に関する法律（廃棄物処理法）	
▶ 食品循環資源の再生利用等の促進に関する法律（食品リサイクル法）	
▶ 資源の有効な利用の促進に関する法律（リサイクル法）	
▶ 容器包装に係る分別収集及び再商品化の促進等に関する法律（容器包装リサイクル法）	
▶ エネルギーの使用の合理化に関する法律（省エネルギー法）	
▶ 地球温暖化対策の推進に関する法律（地球温暖化対策推進法）	
▶ 労働安全衛生法	
▶ 自治体との環境保全協定	など

■ 環境管理に関するお問い合わせに迅速かつ誠実な対応を心がけています

環境管理に関するお問い合わせに対して、その都度、迅速かつ誠実な対応を心がけています。対応策実施後はその効果を確認し、お問い合わせをいただいた方に報告し、ご了解をいただいています（お名前を教えていただけなかった場合を除く）。

〈お問い合わせ内容と対応策の一覧（2012年度）〉

	内 容	対応策
騒音	工場から配管をたたくような音がする。	廃水処理設備の調整槽に備えられているポンプ類が故障していたのが原因。ポンプ類を修理して対応しました。
	工場敷地にある室外機から異音が続く。	室外機の冷却ファンが経年劣化していたため、取り替えることで、異音を解消しました。
	工場のクーリングタワーの音が大きい。	クーリングタワーのベアリングが経年劣化して異音が発生していたため、ベアリングを交換しました。
日当たり不良	敷地に植えられている高木で日当たりが悪化し、冬場に路面が凍結する。	高木を伐採しました。

環境情報開示

「環境保全活動をはじめ、CSR活動について社内外へ情報発信することは企業の果たすべき責任である」という認識のもと、積極的に情報を開示しています。

■ 2000年から毎年、報告書を発行してCSR活動に関する情報を開示しています

環境保全活動をはじめ、伊藤ハムグループのCSR活動をご理解いただくために、2000年から毎年、CSR報告書を発行※しています。環境負荷の低減を考慮して2012年に冊子を廃止し、ホームページで情報を開示しています。

また、「伊藤ハムグループ2013年CSR報告書」のホームページに専用フォームを設け、CSR報告書に関するご意見、ご感想などを投稿いただけるようにしています。



※ 2000年はエコレポート、2001年～2004年は環境報告書、2005年～2007年は社会・環境報告書、2008年よりCSR報告書として発行

「伊藤ハムグループ2013年CSR報告書」のホームページ

従業員教育・地域とのコミュニケーション

従業員の環境保全意識を高め、継続的に環境保全に取り組む企業風土を醸成するために、環境教育や意識啓発に取り組んでいます。このような取り組みの一環として「環境ボランティア体験学習」を実施しています。また、環境学習「出前授業」を実施し、地域の皆様との交流を深めています。

■ 従業員教育を実施して環境保全意識の向上を図りました

2012年度は「新入社員の環境教育」、「環境マネジメントシステム教育」、「工場における一般教育・専門教育」などの教育を実施するとともに、職場に「環境情報掲示板」を設置するなど、従業員の環境保全意識の向上に努めています。

■ 環境学習「出前授業」を実施し、地域との交流を深めています

NPO法人「こども環境活動支援協会」(西宮市)の「環境学習支援プロジェクト」に参加しています。また、教育機関からの要望に応じて、環境学習「出前授業」を実施するなど、地域との交流を深めています。



環境学習出前授業(神戸市立なぎさ小学校)

■ 環境ボランティア体験学習



課外授業「こうべ森の学校」



クリーンアップin甲子園浜

生物多様性保全への取り組み

● 野生動物がえさと間違えてプラスチックごみやタバコのフィルターなどを誤食しないことを願って、事業所周辺や海岸のクリーンアップ活動を実施しています。甲子園浜(西宮市)では、海を漂い、海鳥や魚類への悪影響が懸念されるレジンペレット※の回収を実施しました。

※ プラスチック製品の中間材料。事業場からの漏れ出し、船からの荷こぼれ、不法投棄などで河川や湖沼、海洋に流出すると、長い年月にわたり分解されず、環境問題になっている。また漂流物を鳥や魚が誤食することで、生体に何らかの影響が生じる可能性が懸念されている。

● 「こうべ森の学校」、「高尾の森づくりの会」に参加し、間伐作業や植樹などの森林保護活動を行っています。



森林保護活動

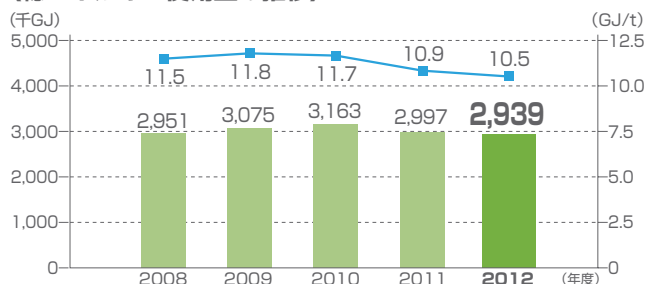
環境負荷低減の取り組み

生産事業所

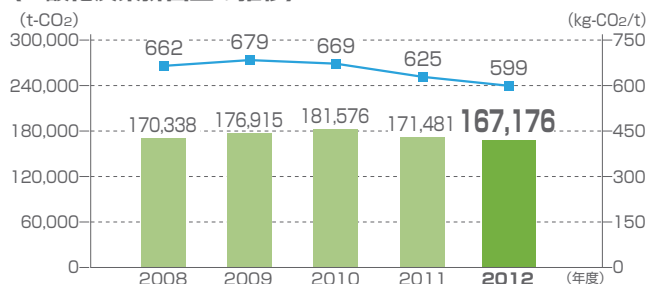
■ より効率の良い機器への更新などで 省エネを図り、二酸化炭素排出量を削減しています

- 効率の良いボイラーに更新しました。
- スパイラル式冷却庫をトンネルフリーザーへ入れ替えました。
- トップランナー方式適用の変圧器に更新しました。
- 工場屋根における、苔緑化設備の設置や断熱効果の高い塗料の塗装などによって、設備全体の温度を下げ、冷房の負荷を低減しました。
- 高温の蒸気ドレン水を回収し、蒸気を作ることによって、湯を沸かす際に必要となる燃料使用量を削減しました。
- 蒸気配管に保温ジャケットを設置して、放熱ロスを少なくし、燃料使用量を削減しました。

〈総エネルギー使用量の推移〉



〈二酸化炭素排出量の推移〉



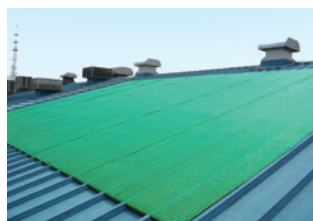
効率の良いボイラー(東京工場)



トンネルフリーザー(豊橋工場)



トップランナー方式適用の変圧器
(伊藤ハムデリー(株)東北工場)



苔緑化設備
(伊藤ハムウエスト(株)九州工場)

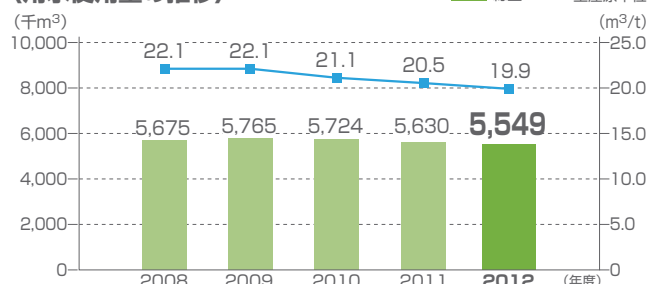
■ 蒸気ドレン水の再利用や雨水の利用で 用水使用量を削減しています

- 蒸気ドレン水を回収して、ボイラー用水に再利用しました。
- 敷地内の消雪に雨水を利用しました。



蒸気ドレン水の貯水タンク(豊橋工場)

〈用水使用量の推移〉



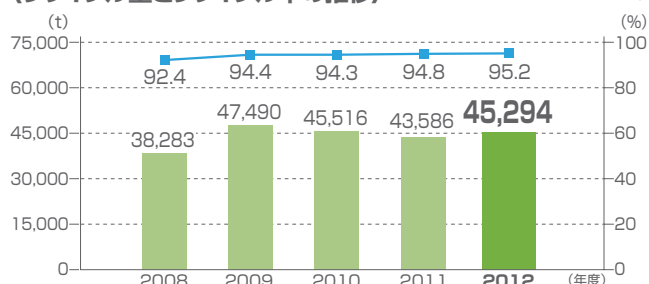
■ 廃棄物の発生抑制、減容を推進するとともに、 リサイクル率を高めています

- 廃プラスチック圧縮機を導入しました。
- 廃ポリシートをマテリアルリサイクルしました。

〈廃棄物排出量の推移〉



〈リサイクル量とリサイクル率の推移〉



生産事業所対象範囲

■伊藤ハム(株)神戸、六甲、西宮、豊橋、東京各工場 ■伊藤ハムデリー(株)東北、小樽、北陸各工場 ■伊藤ハムウエスト(株)九州工場 ■浅草ハム(株)関東工場 ■ハーバーデリカデッセン(株)四日市工場 ■筑紫ファクトリー(株)北九州工場 ■ロイヤルデリカ(株)本社工場、岡山事業所 ■(株)菊水本社工場、サッポロファクトリー ■サンキョーミート(株)有明ミート、霧島ミート各工場 ■IHミートパッカー(株)関西、名古屋、東京、宮城、十和田各ミートセンター ■IHミートソリューション(株)九州、神戸、川崎、仙台、札幌各バックセンター ■沖縄フレッシュバック(株) ■(株)藤栄

事務所・営業所・物流センター

■ 空調機の更新や輸送効率の向上などにより、 電力・燃料使用量の削減に努めています

- 空調機を高効率タイプに更新しました。
- LED照明への切り替えを進めました。
- クールビズ、ウォームビズを実施し、節電に取り組みました。
- 積み合わせ輸送・混送便の利用、輸送量に応じた適正車種の選択、輸送ルートの見直しなどで、輸送効率を向上させました。
- 保有車両の低公害車(低燃費、低排出ガス自動車、アイドリングストップ機能搭載車、ハイブリッド車など)への転換を進めました。
- 車両へのエコドライブステッカーの貼り付け、「エコドライブ推進月間」(11月)のポスター掲示などにより、従業員の意識を啓発し、エコドライブを促進しました。

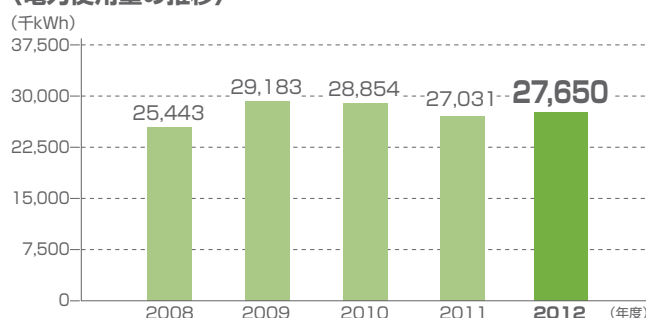


クールビズの実施を
周知する表示(本社事務所)



「エコドライブ推進月間」ポスター

〈電力使用量の推移〉



〈車両燃料(軽油・ガソリン)使用量の推移〉



事務所・営業所・物流センター対象範囲

- 伊藤ハム(株)本社事務所、東京事務所、名古屋事務所、中央研究所
- 伊藤ハムデイリー(株)各営業所 ■ 伊藤ハムウエスト(株)各営業所
- 伊藤ハム販売(株)各営業所 ■ 伊藤ハムミート販売東(株)各営業所
- 伊藤ハムミート販売西(株)各営業所
- アイエイチロジスティクスサービス(株)各営業所および各センター

環境管理に携わる社員の声(豊橋工場)

豊橋工場ではハム、ソーセージ、惣菜品を製造しています。製造6課では、冷却効率を向上させるために、従来使用していたスパイラル式冷却庫からトンネルフリーザーに入れ替え、生産原単位で電力量を半減することができました。

また、以前は回収できなかった加熱工程で発生する蒸気ドレン水を回収、ボイラーの予熱やボイラー用水に再利用し、重油や用水使用量の削減に取り組んでいます。今後は、排気ファンの制御方法見直しや外灯にLED照明を導入するなど「省エネルギー改善活動」を進めていきます。



加工食品事業本部
生産本部 豊橋工場
管理部ES課 第2係係長
山口 博史

環境管理に携わる社員の声(東京工場)

東京工場ではハム、ソーセージのほか、ピザやブリトーなどの調理品も製造しています。2012年度は、環境関連設備への投資としてボイラーの更新を行い、ボイラーの年間電力量を36千kWh(前年比14.2%)削減することができました。そのほか、工場の屋根や空冷冷凍機のコンデンサへの散水、事務所窓への遮熱カーテンの設置、照明の間引きなどを実施しました。

今後は、設備投資などのハード面はもちろんのこと、ソフト面でも従業員の環境保全に対する意識向上を目指して、環境教育により一層注力します。



加工食品事業本部
生産本部 東京工場
管理部環境管理課課長
池田 寛



社会活動、環境保全活動などについてのお問い合わせ先

伊藤ハム株式会社
CSR本部コンプライアンス推進室
〒663-8586 兵庫県西宮市高畑町4番27号
T E L : (0798) 65-5286
F A X : (0798) 66-3391
U R L : <http://www.itoham.co.jp>
E-mail : eco@itoham.co.jp
発行 2013年9月

次回発行予定 2014年9月